

経済消防常任委員会審査概要報告書

委員長 野上 達夫

- I 開催年月日 平成 29 年 9 月 12 日（火）
- II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 37 分
- III 出席委員等〔出席委員〕◎野上 達夫 ○藪中 一夫 永森 茂
曾田 康司 四十九清治 畠 起也
（◎…委員長、○…副委員長）
- 〔議長〕※曾田 康司議長は委員として出席
- 〔副議長〕※樋詰 和子副議長は民生病院常任委員会出席のため欠席
- 〔説明員〕別紙名簿のとおり
- 〔委員外議員〕なし
- 〔事務局職員〕敦賀 茂樹 柚原 規泰 六土 幸拓
- 〔傍聴者〕なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

議案 第 63 号 平成 29 年度 高岡市一般会計補正予算（第 2 号）のうち
本委員会所管分

議案 第 64 号 平成 29 年度高岡市工業団地造成事業会計補正予算（第 1 号）
及び

議案 第 72 号 高岡市火災予防条例の一部を改正する条例

以上、予算議案 2 件及び条例議案 1 件の計 3 件は審査の結果、議案第 63 号のうち本委員会所管分、議案第 64 号及び議案第 72 号については全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑は次のとおり。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【議案第 63 号のうち、野菜生産振興事業費について】

- 野菜生産振興事業費では、販売金額 1 品目 1 億円規模の園芸産地づくりに必要な機械の導入に対して、支援するため、1,017 万円が補正計上されているが、その生産野菜の生産高、売上高の実績及び野菜品目はどのようになっているのか。また、本事業の具体的な目標の達成時期はいつか。
- △ 今回の補正の対象は、いなば農業協同組合が取り組むハトムギとキャベツの 2 品目となっており、その実績は、ハトムギで販売額約 1 億 1,000 万円、作付面積約 218 ヘクタール、出荷量約 470 トン。キャベツは、販売額約 2,800 万円、作付面積約 11 ヘクタール、出荷量約 473 トンとなっている。

本市では、平成 29 年度からハトムギ、キャベツ、ハウレンソウ、小松菜、ニンジン、里芋、ジャガイモ、スゲ、チューリップの 9 品目を重点品目に定めて生産に取り組んでいるところである。

作付面積や出荷量、販売額などの具体的な目標達成時期については、生産品目の絞り込みや選定を含め農業協同組合や生産団体と話し合い、適宜検討していきたい。
- 事業に対して投資をする際は、初めに事業計画で投資収益の目標達成時期を定めたい。うえで、事業計画の評価や見直し等を行いながら事業を進めるべきと考えるが、見解は。
- △ 指摘のあった点を意識し、今後、高岡、いなば農業協同組合や生産団体等事業者と話し合いを行っていききたい。

【議案第 72 号のうち、条例違反に対する措置について】

- 現時点で消防法令上義務付けられている屋内消火栓設備やスプリンクラー設備、自動火災報知設備がそれぞれ一切設置されていない建物は何件あるのか。また、病院や高齢者施設など一人で避難することが困難な方が利用する建物では、消防法令に関する重大な違反はあってはならないと考えるが、違反のある建物関係者に対する措置は、建物の名称や違反内容などの公表をするだけなのか。
- △ 平成 27 年 3 月末に国から重大な消防法令違反が認められる建物名称、所在地及び違反内容を公表する制度の積極的な導入を求める通知があり、本市でも制度実施に向け、対象とする建物関係者に、条例の改正内容を周知するとともに、立入検査を実施したところである。その結果、対象とする建物は約 1,400 件あり、そのうち 2 件の違反があった。この 2 件の違反について、30 年 3 月末までに改善するよう指導しているところである。

消防法令に関する重大な違反のある建物については、今回の公表制度のほかに、従前より警告や命令等に基づく法的措置により厳格な対応をとっている。

2 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔農業委員会〕

・農業委員及び農地利用最適化推進委員の募集について

〈 委員から質疑はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査をする必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

(1) イベントの開催について

(2) セミナーの案内について

〈 委員から次のような質疑があった。 〉

【セルロースナノファイバーセミナーの開催について】

○ セルロースナノファイバーは開発当初から新素材として注目されており、その市場は数兆円規模と聞いていた。今回、どのような経緯でセミナーの開催に至ったのか。

△ 平成 28 年度に中越パルプ工業株式会社や富山県工業技術センター等と共同で、セルロースナノファイバーと高岡漆器を融合した製品が試作され、試作品を 29 年 2 月に東京インターナショナルギフトショーに出品する取り組みが行われた。

このような取り組みを多くの企業に知っていただき、新素材の活用を今後の商品開発の参考にしてもらうため、本セミナーを開催することとなった。

○ 中越パルプ工業株式会社の新素材の量産プラントを川内市に誘致しているが、高岡市には中越パルプ工業株式会社の本社があることから、量産プラントの誘致にもう少し積極的に取り組むべきだったのではないかと考えている。今後は新事業や新素材開発に対する企業誘致等、センシティブに取り組んでほしい。

△ 中越パルプ工業株式会社が量産プラントを本市に設置しなかったことは会社の事情によるものと聞いており、本市の取り組みが影響したのではないと捉えている。新事業等に対する企業誘致については、引き続きニーズを捉え、目配りをしながら取り組んでいきたい。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

経済消防常任委員会 当局説明員（16名）

産業振興部長	福 田 直 之	消防長	澤 崎 茂
次長 商業雇用課長	山 村 淳 子	次長	寺 口 克 己
参事	宮 本 哲 哉	総務課長	広 田 一 徳
参事	舘 下 徹	予防課長	牧 真
産業企画課長	末 坂 進	警防課長	田 川 裕 之
観光交流課長	長 谷 川 聡	通信指令課長	浦 島 章 浩
農業水産課長	有 栖 友 広		
農地林務課長	村 本 民 則		
みなと振興課長	須 田 稔 彦		
農業委員会事務局長	山 田 晃		